

1. 教育の責任

* 国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容及び異文化看護能力開発のための看護教育の一翼を担っている。

2. 教育の理念

* 日本のグローバル化に対応できる看護師を養成するために、日本人と共に暮らす多様な人々がもつ背景を理解し、適切な医療や看護が提供できるよう支援や看護ができる看護師を養成している。そのため、既にグローバル社会となっている阪神地区において、定住外国人や訪日外国人、在外日本人に加えて、移民、難民問題についても理解を深める教育と実習を展開している。

3. 教育の方法

国際看護学実習Ⅰ・Ⅱでは、多様性をもつ文化的背景や価値観をより理解する機会とする実習としているために、地域における定住外国人支援センターや多言語センターまたは JICA や検疫所など、日本における医療や看護、感染症対策の実際と課題について、座学での学びを更に深める機会としている。国際看護学実習Ⅲは全員 MOU を締結した看護系大学での臨地実習を行った。海外実習では、現地の看護学生直接ディスカッションできるように事前に準備させ、現地では自ら現地の健康に関する状況をフィールドワークさせるなど、自主性をもって異文化やその国の健康問題を考えることができるように工夫した。国内実習では諸外国の看護系大学との遠隔による交流会や海外医療支援の具体的なデモンストレーションを取り入れた実習展開とする工夫を行った。

国際看護学演習ⅠとⅡでは、地球を一つの多様な地域としてとらえる視座を培う講義内容とし、演習ではグローバルコミュニケーション力を培うため英語コミュニケーションを行えるように、全体講義と、できるだけ目の行き届くグループごとの指導のメリハリの有る授業を行っている。国際看護演習Ⅰでは医療英語を用いた外来での対応や診療の介助、入院清潔の説明が行える演習を実施している。くわえて、やさしい日本語を用いた資料作成や説明の方法についても学修する。

国際演習Ⅱでは、医療英語を用いた外国人入院患者の対応や診療介助看護の説明が行える演習を実施している。これらの演習では、学年に応じた学修の積み重ねができるように、学修内容をリンクできるように学んだことを繰り返しながら学習定着が測れるような教授を行っている。実際には、演習では、医療英語の学修を促進するために、医学英語語彙力を高めるために、学生が日本語で学んだ解剖学や生理学の知識とリンクできるように、図やイラストを使用して医学英語語彙を増やすことを目的とした独自作成したワークブックを使用している。この独自テキストブックは、本学部が掲げている医学英語検定 4 級合格を目指す内容となっている。医療英語を用いたコミュニケーション演習では、臨床の表現方法を学び、卒業後外来での対応や翻訳機、優しい日本語、イラストなど、多種多様なコミュニケーションツールを駆使して対象のニーズを把握する知識や技術を学修できる内容としている。ロールプレイによるアクティブラーニングを行っており、英語の 4 技能「聞く」「話す」「読む」「書く」のうち、「聞く」「話す」能力が向上できるような指導を行っている。

4. 教育の成果

* 学生は日本人以外の定住外国人や訪日外国人または在外日本人の医療や看護の実態を理解し、課題への取り組みについても考察を深めている。また、MOU を締結している看護系大学の学生との交流なども活発に行い、諸外国の現状や今後の日本の医療や看護での取り組みについても意見交換を行っている。英語民間試験の受験の結果は、合格率は約 7 %と低い状況であるが、英語の専門的な医学用語の習得や、実際の臨床で使用できる英語を用いた会話への取り組みが促されていると評価できる。この他、実習が終了しても、施設によってはボランティアで関わるなど交流が継続し、地域に暮らす人々を看護する必要性の理解し、実践している学生達も大勢育っている。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：望月 明見 作成日：2025 年 1 月 10 日

5. 改善への努力と今後の目標

* 専門的医学英語語彙を習得できるように、授業後のミニテストを行い学生の復習を促すことで、知識の定着を図った、医療英語を学ぶ国際看護演習では、1 人の教員が 10 人程度を受け持つロールプレイや GW を実施することで、臨床で使用できる「話す」という技能を向上させ、コミュニケーション能力を上げることがさらに必要である。今後は、より一層、学生からの発話の機会を増やすことで、英語によるスピーキング力やプレゼンテーション能力を促す教授の工夫が必要である。

【添付資料】